

学校図書館支援センター通信

NO.137

10月号

令和元年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

文部科学省委託調査研究 協力校公開授業 ～市川市立第七中学校～

9月25日（水）、学校図書館活用の公開授業が開催され、国語科、社会科、理科、保健体育科の授業が行われていました。市川市立第七中学校の学校図書館には、情報カードをはじめ、色画用紙や様々な大きさに切られている色上質紙など、調べ学習に必要な文房具が用意されており、どの教科の学習でも、必要な時に生徒たちがすぐに使える環境が整っていました。生徒たちは、用意された情報カード等を上手に活用しながら、調べたことをまとめていました。

今回は、3人の先生方の授業実践をご紹介します。

国語科 第3学年 授業者 福田 恭子先生 『平和』の尊さを令和に語り継ぐ36人のものたち～語り継ぐもの～

情報カード、付箋、様々な大きさに切られた色上質紙が用意されています。



本単元の題材「語り継ぐもの」とは、原爆詩の朗読を長年続けてきた吉永小百合さんの平和への願いが書かれたエッセイです。「語り継ぐもの」に書かれている吉永さんの平和への思いに触れ、さらに原爆詩の作品を読むことで、生徒一人一人が「平和」の尊さについて深く考える学習でした。授業では、生徒一人一人が原爆詩と向き合う姿が見られました。単元の最後には、心に響いた詩をみんなの前で朗読します。

協議会では、普段の生活で「原爆詩」を進んで手に取ることが少ない中、意図的に「原爆詩」を読むことを今回計画したことが大変価値があるという話がありました。

社会科 第3学年 授業者 岡本 玲央 先生 「平等社会と共生社会」



今回の授業者のねらいは、抽象的な概念として理解されがちな「基本的人権」を生徒たちにより具体性を持って理解できるようにすることです。そのため、対立・衝突する権利を2つ選び、事例を集め、解決するための具体的な手立てや政策を考えるという単元構成となっていました。生徒たちは、「知る権利とプライバシーの権利」など事例によって対立する権利を選び、図書資料を用いたことで、権利の内容や具体的な事例など、必要な情報を集めることができました。また、図書館にある百科事典、国語辞典、新書など幅広い図書資料から必要な資料を選び、対立する事例や話題を探していました。



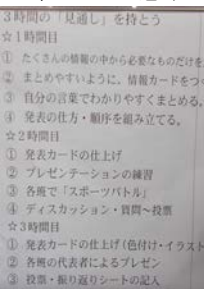
ネットワーク便で集まった160冊あまりの図書



図書館の入口に、オリンピック・パラリンピックのコーナーがありました。1学年の取組を全校へ広げていく予定だそうです。

保健体育科 第1学年 授業者 亀井 優 先生 「東京オリンピック・パラリンピック競技のスポーツバトル」

来年開催されるオリンピック・パラリンピックが題材であったので、生徒たちの意欲につながっていました。授業者は、自分の言葉で人に伝えられる力の育成を日頃より大切にしており、今回の単元でも「調べて、まとめて、伝える」という流れで行っていました。一人で一つのスポーツを調べ、班ごとに「スポーツバトル（ディスカッション）」を行い代表者を決め、学級で代表者同士の発表を行い、チャンプスポーツを決めます。3時間という短い時間でやるために、夏休みの宿題として事前に生徒が調べることで時間短縮の工夫をしていました。



見通しわかる掲示物

また、授業者自ら、国語科で行われている学校図書館を活用した「竹取物語」の授業を参観して、生徒たちの実態を把握するとともに、他教科での学びを授業に取り入れようとしていました。

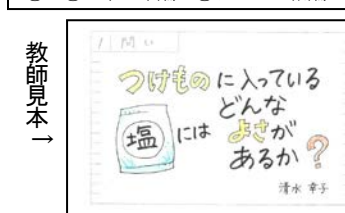
4年目教員対象 授業力アップ研修 ～学校図書館活用を学ぶ～

4年目教員を対象にした授業力アップ研修は、授業力の向上をねらいとして、学校図書館を活用した授業作りについて学びます。4年目教員は、まず先輩の先生の学校図書館を活用した授業を参観します。そして、参観を通して学んだことをもとに、自校にて実際に学校図書館を活用した授業実践を行うという研修となっています。今年度は、中学校1校、小学校2校の協力を得て、学校図書館を活用した授業参観を行います。10月号では、市川市立下貝塚中学校で行われた授業参観の様子をご紹介します。

第1学年 国語科 プレゼンカードで情報発信 「調べて伝える食材豆知識」



【プレゼンカード】
B6の大きさの用紙6枚で作成
①表紙 ②はじめ・序論
③～⑤ 中・本論 ⑥おわり・結論



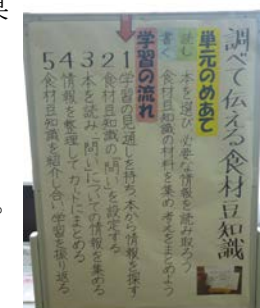
～受講者の感想より～

- ・図書館を活用した授業は、考え方を変えて工夫することで、教科の枠に縛られずにできることがわかりました。
- ・明確な1時間ごとの目標が生徒の意欲を高めさせると感じました。
- ・すべてを一人でやろうとすると難しいですが、学校司書と協力して作り上げれば可能性は広がると思いました。

9月26日（木）市川市立下貝塚中学校 授業者 清水 幸子先生

「図書資料から必要な情報を集めるための方法を身に付け、必要な情報を読み取ること」を主なねらいとし、学習が進んでいました。本単元のねらいを達成させるためには、食材豆知識についての「問い（テーマ）」を各自で設定できるかが重要です。そのための工夫として、食材に関する図書資料を読む時間を十分に確保すること、問いの立て方を解説した「問いのてびき」を用意すること、マッピングを活用して伝えたい内容を明確にすることなどを行ったそうです。その結果、「スイカの種にはどんな使い道があるだろうか」「なめこのぬめりにはどのような効果があるか」など、生徒たちはそれぞれの「問い」を設定することができていました。

参観した授業は、自分の「問い」についての情報を集める時間でしたが、教師見本、生徒たちの思考を助ける配付資料、図書資料や4色の情報カードの拡大掲示など、様々な手立てが用意されていました。まとめの場面では、自分の本の選び方や読み方について振り返り、情報を集めるための方法について身に付けようとする姿が見られました。



生徒自身が、学習の見通しを持つことで、安心して取り組むことができました。

図書館の窓から ～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～



第八中学校では1・2学期末に読書週間を設けています。期間中の朝読書の時間に図書委員が各クラスへ出向いて、読み聞かせを行っています。

通常の図書館内での活動と違い、全校生徒に図書委員の活動を直接披露する貴重な機会なので、班ごとに練習を重ねて、緊張と闘いながら本番に臨みます。

読書週間終了後は、記録の集計を図書委員会だよりで発表しています。今読んでいる本やこれから読みたい本について、情報交換する姿が見られます。

1年を通じて朝読書を行っており、昼休みは毎日開館している八中図書館ですが、より多くの生徒が心に残る1冊と出会えるように、図書委員と共に活動していきたいと思います。

【市川市立第八中学校 学校司書 西川 由子】

『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。
市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）
〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4
TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352
<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

